

地域包括ケアネットワーク No.41

赤磐市における医療介護連携への取り組み

赤磐医師会 上野 芳樹

赤磐市の人口は、平成27年度、約4万5千人で、65歳以上の高齢者は1万4千人弱です。そのうち要介護認定者は2,356人で、要介護認定率としては赤磐市の全高齢者の17.1%にあたります。この5年間、要介護認定率は17%前後でほぼ一定ですが、認定者の人数は、平成22年度には1,963人でしたので、高齢者の増加に伴って約400人増加しています。

医療介護従事者の人数には限りがありますので、高齢化による要介護者の絶対数の増加は、「できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるようにする」という地域包括ケアの理念を実現するうえで大きな困難を伴います。このため限られた人数の医療介護従事者においては、効率的で中身の濃い連携が重要と考えられます。

赤磐市では、平成25年度からの在宅医療連携拠点事業に引き続き、平成28年度、赤磐市独自に「赤磐市在宅医療・介護連携推進協議会」を立ち上げ、赤磐医師会医師、赤磐歯科医師会歯科医師、赤磐薬剤師会薬剤師、弁護士、訪問看護師、赤磐医師会病院総看護師長、赤磐医師会病院管理栄養士、通所介護事業所スタッフ、訪問介護スタッフ、ケアマネージャー、備前保健所東備支所長、赤磐市保健師、赤磐市介護保険課長、赤磐市副市長、赤磐市立診療所看護師が委員となり、医療、介護、行政担当らからなる、いわば『オール赤磐』と言える体制で活動を開始しました。赤磐医師会からは間阪拓郎先生、小坂恒徳先生に委員としてご参加いただき、間阪先生は赤磐市在宅医療・介護連携推進協議会長として、協議会の運営の中心となっております。

これまでの活動ですが、地域住民への普及啓発活動として「在宅医療や看取り」、「認知症について」の外部講師による講演会を行い、在宅医療に対する人材育成として赤磐医師会・森昌忠先生による認知症の講演、赤磐歯科医師会の先生方による口腔ケア研修会および、介護担当者らに対する赤磐医師会病院・佐能昭先生による回復期リハビリと在宅療養についての研修会、さらには赤磐薬剤師会から「薬剤師と在宅医療のかかわりについて」の研修などを行ってきました。

また、平成25年度は多職種が効率的に連携できるように、在宅医療連携ノート「ささえさん」を作成しました。「ささえさん」には在宅療養を行っている方を支える家族、ケアマネージャ、介護関係者、主治医、薬剤師、歯科医師、民生委員、近所の関係者などを記名、服薬情報などの療養上の情報を記入しておきます。変化があればそれぞれの関係者で情報交換ができるようにしてあります。赤磐市民の間で、少しずつ「ささえさん」ノートの利用が増えてきています。平成26年度は一般住民に対して、在宅医療啓発リーフレット「在宅医療のご案内」を作成しました。これには訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護、訪問服薬管理、訪問リハビリなど、在宅で療養する際に利用できるサービスの内容が紹介され、相談窓口なども記載してあります。平成27年度は

リビングウィルリーフレット「豊かな人生を送るために考えてみよう 私のエンディング」を作成しました。終末期医療に関する説明と「私の医療に対する希望」を記載できるようにしたカードも作成し、一般に配布しました。

赤磐市在宅医療・介護連携推進協議会の活動の目玉は、医療介護に従事する多職種連携のための1年に2回程度開催する『ケア・カフェ』です。これは、医療・介護に携わる多職種の関係者が一堂に会し、顔の見える関係を作ることを目的としています。2部構成で、第一部はミニレクチャーや事例発表、第二部はテーマを決めてワールドカフェ形式でのグループディスカッションを行います。お茶を飲み、お菓子を食べながらの楽しい会で、人気上昇して、当初1回の参加者が70～80名でしたが、最近では100名を超えるようになり、開催場所の確保が難しくなっています。今までのグループディスカッションのテーマは「他職種の事を知って、連携を深めよう」「どうあれば(医療や介護の必要な)高齢者が安心して最期まで暮らせる赤磐市になるか」「在宅医療連携ノート『ささえさん』の普及と医療連携強化に向けて」などでした。それぞれの「ケア・カフェ」で赤磐医師会の先生方にも数人のご参加をいただいておりますが、まだまだ参加者は少なく、介護関係の参加者の方々からもドクターと話ができると大変勉強になり、視野が広がるなどの意見が出ており、医師会員の先生方にも、積極的に御参加いただければ幸いです。

平成28年度には、初めての企画として、11月に『在宅医療・介護推進フェア』を開催しました。このフェアでは、一般住民を対象に、赤磐医師会病院の会議室で在宅療養・看取りについての講演を行い、並行して赤磐医師会病院の1階リハビリ室をお借りし特設コーナーを設けました。特設コーナーでは相談コーナーで赤磐市包括支援センターによる相談、在宅医療コーナーでは赤磐医師会医師、赤磐市内訪問看護ステーション、薬剤師などによる在宅療養の相談、赤磐歯科医師会の訪問診療機器の展示及び相談、在宅介護コーナーでは赤磐市内訪問介護事業所の紹介、在宅療養の医療機器リース業者による機器展示、口腔ケア用品、嚥下障害食などの展示、説明、赤磐医師会病院コーナーでは入退院の流れや各病棟の特徴、入院中のリハビリや栄養指導等の説明を行いました。一般の住民や家族を介護している人々などが、フェアの見学に多数お越しになり盛会でした。

赤磐市在宅医療・介護連携推進協議会の今後の課題としては、①認知症についての医療と介護の取り組み、②在宅医療・介護の普及啓発、③終末期の迎え方(看取り)についての普及啓発、④医療・介護の連携(病院入院⇔在宅の連携、在宅医療連携ノート「ささえさん」の見直しと利用拡大)、などが考えられています。前途多難ではありますが、これからも、限られた医療介護に携わる人材のなかで、赤磐地域においてよりよい地域包括ケアが実現できるよう少しずつ歩んでいけることを期待しております。